

研究の成果(発表論文・記事・著書)

研究成果として最近発表した主な論文、出版図書、記事は次のとおりです。

年月	論文タイトル、書名	発行・発表
発表論文 (第一著者のもの)		
2008.9	土木遺産を守る技術(研究討論会)	土木学会全国大会
2008.8	生産工学部におけるFD活動	工学教育協会大会
2008.7	土木図面の史料性に関する調査研究	土木史研究発表会
2007.9	土木図面の保管に関する海外調査	土木学会全国大会
2007.8	土木史科目をコアとしたEAC	工学教育協会大会
2007.6	土木構造物歴史的価値に関する考察	土木計画学
2006.10	A study on repair & strengthening on steel bridges with historical value	REAAA コンファレンス (フィリピン)
2006.9	歴史的鋼橋の補修補強に関する研究	土木学会全国大会
2006.9	図面史料の保管保存調査	土木学会全国大会
雑誌などへの掲載記事 (第一著者のもの)		
2008.8	ミニ特集「土木遺産の保全」	土木学会誌
2008.5	歴史的遺産の保全と技術者の役割	建設施工企画
2008.1	鋼橋における歴史的価値の継承	建設業界
著書(共著)		
2008.9	建設産業事典	鹿島出版
2007.12	オレスン海峡連絡プロジェクト	海洋架橋橋梁調査
2006.11	歴史的鋼橋補修補強マニュアル	土木学会
2004.5	橋梁工学ハンドブック	技報堂出版

海外活動

最近2年間の海外研究活動は次のとおりです。

最近2年間の海外研究活動

年月	場所	目的	活動
2009.6	ドイツ/コトバス	建設史学会国際会議	論文発表
2008.11	スコットランド	スコットランド図面調査	調査
2007.11	ロサンゼルス	アメリカ橋梁図面調査	調査
2007.7	スコットランド	テルフォードコンファレンス	基調講演
2006.10	マニラ	REAAA 国際会議	論文発表
2006.8	エジンバラ/ロンドン	イギリス土木学会	会議、調査

学外の活動(21年度)

土木学会などの研究活動、国交省や文化庁などの政府委員業務を通じた行政に関わる活動など、自らの研究課題との関連から学外の活動には積極的に取り組んでいます。20年度は、国交省2件、文化庁1件、土木学会6件、その他5件、合計14件の委員会を通じて学外活動を実施しています。

平成21年度に実施中の学外活動

組織名	活動名	役職
国土交通省	千葉国道総合評価審査分科会	委員
国土交通省	関東地整技術提案型評価検討会	委員長
千葉市	橋梁長寿命化計画策定委員会	委員長
横浜市	跨線橋転用計画検討委員会	委員
文化庁	「近代化遺産修理」企画審査会	委員長
土木学会	図書館委員会	委員長
土木学会	運営委員会	部門代表
土木学会	JABEE 審査委員会	委員
土木学会	歴史的構造物保全連合小委員会	委員長
土木学会	鋼構造委員会継続教育小委員会	委員長
土木学会	土木学会論文賞選考委員会	委員
日本橋梁建設協会	基幹技能者認定委員会	委員
建設産業史研究会		委員

2010年版

五十畑 研究室のご案内

土木計画・橋梁・鋼構造・土木史・建設生産システム～

(土木工学科 + 環境安全工学科)

平成24年までの4年間は、土木工学科(卒研、大学院含む)と、環境安全工学科の両学科目を担当します。

永代橋(1926) 重文



清洲橋(1928) 重文



Tower Bridge (1893)



Forth Bridge (1890)

五十畑 弘

博士(工学)、技術士(建設/技術総合監理)
 特別上級技術者[鋼・コンクリート](土木学会)、
 特別教育士、APEC エンジニア
 〒275-8575 習志野市泉町1-2-1
 日本大学生産工学部土木工学科
 津田沼校舎14号館204室
 Tel: 047-474-2454、Fax: 047474-2449
 e-mail: isohata@cit.nihon-u.ac.jp

教育活動

次の科目を担当しています(21年度)。

学部	大学院
ゼミナール	土木計画学特講
技術者倫理(S)	都市システム計画学
土木設計製図 I	
土木設計製図 I (S)	
橋梁工学	
土木技術史(S)	
土木計画学(S)	
フレッシュマンセミナー	
環境実験 I	

*ポータルサイトからシラバス参照

ゼミナール(平成 21 年度・後期)

「土木技術と職業」をテーマとして、公共事業の仕組みの変化、技術者資格の動向、企業倫理、技術者倫理重視の傾向、土木の文化的側面の評価、建設事業の土木計画アプローチなどを具体的事例により理解し、土木技術者としての職業観を養う導入とすることを狙いとします。パワーポイント、プリントなどを使用した当日のテーマの解説と、それをもとにした議論で講義を進めます。詳細は Web 版シラバス参照。

卒業研究の方針(平成 22 年度)

卒業研究では、産業界での実務経験をもとに、研究成果よりもそのプロセスから以下の教育効果を得るように進めます。

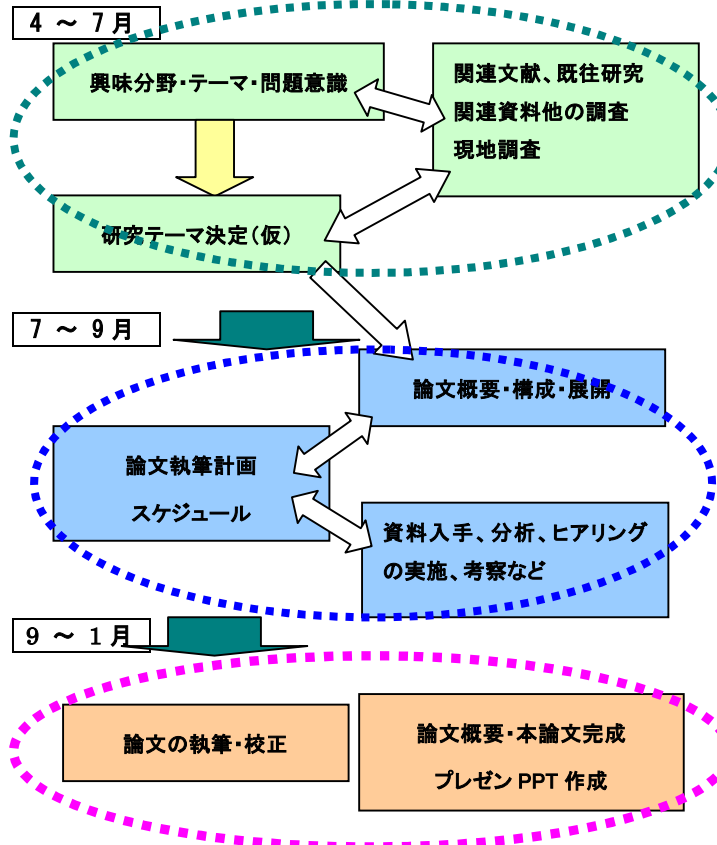
1. 文書作成、議論、資料収集、仕事のマネジメント、約束の時間に仕上げる、人前で発表・説明など技術者の実務的訓練をする
2. 与えられた課題ではなく、自分で見つける問題解決型の訓練を徹底する。各自主体での実施を基本とする。
3. 土木計画学の重要性和面白さを知る
4. 橋梁を中心とした土木構造物の美しさ、利便性、社会性、歴史性について理解を深める
5. 土木技術者の役割とあり方と職業への意識をたかめる

科目共通の方針

公表したシラバスに忠実に、授業アンケート結果を反映し授業方法に工夫を加えて授業を行います。各科目の方針、目標は Web 版シラバスを参照のこと。授業は当然やるべきことを、額面どおりに、当たり前に進めます。

卒業研究の進め方と手順

卒研の進め方と手順は学生により異なるがおおよそ次のようになります。



卒業研究の分野

土木計画・橋梁を中心に以下の分野および関連分野から各人が主体的に選定をします。

- ・維持・補修を考慮した鋼橋の計画・設計
- ・歴史的橋梁「日本橋」を活かしたまちづくり
- ・隅田川の復興橋梁に関する調査研究
- ・土木構造物に対する社会ニーズの変化に関する研究
- ・土木計画と景観、まちづくりと景観
- ・歴史的まちなみと土木構造物

- ・中心市街地活性化などまちづくりの課題
- ・公共事業の執行と住民参加・合意形成
- ・土木史研究
- ・土木行政と国土計画の史的調査
- ・公共事業と建設産業史論
- ・土木計画と環境
- ・新しい公共事業手法
- ・隅田川の復興橋梁に関する調査研究
- ・土木遺産の保全と活用
- ・土木図面の史料性に関する研究

研究活動

産業界において長年携わった鋼橋建設の経験を踏まえて、橋梁、鋼構造に軸足をおきつつ、歴史的土木構造物の補修・補強、入札、積算、契約など公共事業システム、近代を中心とする土木史分野、に関するテーマで研究を進めています。現在以下のテーマに取り組んでいます。

- 歴史的鋼橋の補修・補強
- 図面の史料性に関する調査研究
- 近代技術の技術移転
- 国内の近代吊橋の発達史
- 歴史的土木構造物の保全



景観法制定を機に書いた、歴史的鋼橋の保全に関する研究方向がオピニオン欄に掲載。

平成 16 年 7 月朝日新聞記